

高次脳機能障害者の自己認識の特徴 — グループ訓練の評価表から —

病院第一機能回復訓練部

深澤佳世 井上美紀 山本正浩 野月夕香理

伊藤 伸 今村藤香 塚本麻紀

【はじめに】 当院作業療法では復職や復学を目標とする高次脳機能障害者に対し、対人技能、自己認識の向上を目的にグループ訓練を実施している。訓練は参加者同士のディスカッションやゲーム等から構成されている。より効果的な訓練を実施するために、独自に作成した「グループ訓練評価表」の使用結果から患者が認識しにくい問題点、自己認識が進みにくい患者の特性を調査したので報告する。

【対象】 2005年2月から9月にグループ訓練に参加した14(男13、女1)名。年齢は 40.8 ± 13.1 歳。外傷性脳損傷8名、脳血管障害2名、その他4名。受傷から初参加までの期間は 90.8 ± 34.9 日。WAIS-RのFIQは 83.2 ± 20.6 (表1)。

【方法】 評価表(図1)は「情報処理能力」「対人技能」「復職への計画性」について訓練中に観察可能な10の下位項目から成り、項目毎に4段階から現在の状態に最も近い記述を1つ選択することで評価する。総得点は4段階評価を1~4点として点数化し、10項目の合計を算出したものである。評価は初参加から1ヶ月ごとに作業療法士(以下OTR)及び患者本人が実施。OTR評価はグループ訓練担当者2名の合議結果を採用した。初回の全データのうち、OTR-患者間の下位項目の評価が一致した割合を一致率とし、一致率の低い項目を『認識しにくい問題』とした。また、2ヶ月以上継続した10名のうちOTR評価の総得点と患者評価の総得点の乖離が初回より1ヶ月後に大きくなった者を『認識が進みにくい患者』とし、その特性を調べた。

【結果】 『認識しにくい問題』は「情報処理能力」の下位項目である「論理性」、「復職への計画性」の下位項目である「仕事に必要な能力の理解」「復職への進行状況の把握」であった(図2)。『認識が進みにくい患者』は3名であった。この3名は受傷から初回評価までの期間が 236.0 ± 102.3 日で、乖離が縮小する群の 78.2 ± 24.8 日に比べ、経過が長かった(表2)。また3名全員が「対人技能」に関する下位項目で初回より1ヶ月後のOTR評価が下がっていた。

【考察】 高次脳機能障害者の自己認識低下は復職や復学の妨げになる。本調査では患者が認識しにくい問題点は、「論理性」「仕事に必要な能力の理解」「復職への進行状況の把握」であった。訓練場面で患者はゲームの目的や過程より結果に目が向きがちであったり、効率的な情報処理ができずに課題がうまく遂行できなくても「訓練と仕事は別」等と述べ、仕事上の問題点に結びつかないことがよくみられた。グループ訓練では、活動で得られた“体験的気づき”を職業に関連させた“予測的気づき”につなげる援助が重要となる。また受傷からの経過が長い者は、緊張感を保てず対人関係に支障を来しやすいが、それに気づきにくい傾向もあり、早期からの介入の重要性も示唆された。

表 1 : 調査対象者の属性

2005 年 2 月から 9 月にグループ訓練に参加した 14 名、29 データ

男 : 女	13 : 1
年齢 (歳)	40.8 ± 13.1
疾患	TBI (8) 、CVA (2) 、その他 (4)
受傷からの期間 (日)	90.8 ± 34.9
WAIS-R(FIQ)	83.2 ± 20.6
継続期間	1 ヶ月 (4) 、2 ヶ月 (6) 、3 ヶ月以上 (4)

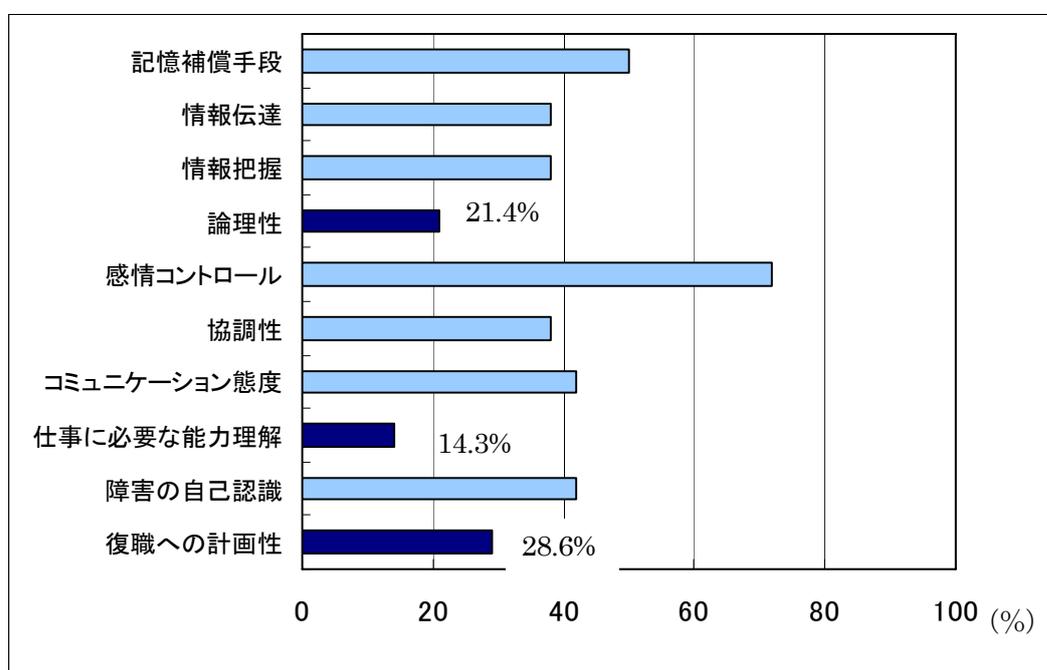


図 2 : 下位項目毎の OTR - 患者間の一致率

表 2 : 総得点の乖離が縮小する群と拡大する群の比較

	乖離が縮小する群(7 名)	乖離が拡大する群(3 名)
平均年齢 (歳)	38.4 ± 9.2	55.0 ± 6.0
受傷からの平均期間(日)	78.2 ± 24.8	236.0 ± 102.3

			本人	職員	乖離
情報処理	記憶障害への補償手段	4. 補償手段は必要としない、あるいは適切に使いこなせている		○	
		3. 自ら活用しているが、時々失敗する	○		▽
		2. 一応は使っているがうまく活用できていない			
		1. 活用できず、日常生活や訓練に支障をきたすことが多い			
情報伝達	情報伝達	4. わかりやすく筋道立てて伝えられる	○	○	一致
		3. まとまりに欠けることもあるが、必要な内容はほぼ伝えられる	○	○	
		2. 必要な内容を補ったり、整理したりに援助を受けることが多い			
		1. 混乱しやすく必要な内容をうまく伝えられないことが多い			
情報把握	情報把握	4. 重要なポイントをとらえて再現できる。あるいは曖昧な点は自ら確認できる	○	○	
		3. 重要なポイントは理解しているが、細かい内容までは把握しきれない	○	○	不一致
		2. だいたい把握できているが、重要なポイントがズレやすい			
		1. 繰り返し説明されてもポイントがつかめない			
論理性	論理性	4. 情報をうまく収集、活用して効率よく課題を進められる	○	○	
		3. 必要な情報の選択はできるが、活用に多少の援助を受ける	○	○	
		2. 情報の整理に時間がかかりすぎる、あるいはすぐ疲れてしまう		○	
		1. 情報が整理できず、行き当たりばったりで援助を受けることがある			
対人技能	感情コントロール	4. 場にあった感情表出ができる	○	○	
		3. イライラ、ニヤニヤ、無表情等が見られるが場を乱すほどではない			
		2. イライラや状況に合わない笑いが出てしまうが、援助されれば抑えられる			
対人技能	協調性	4. 場の状況を読んで適切に参加し、他者との協力もできる	○	○	
		3. たまに状況が読み切れず、その場に適切でない対応をしてしまうことがある			
		2. 場の状況や協力の仕方を助言されれば、協調できる			
対人技能	コミュニケーション態度	4. 参加者の反応に関心を示しながら、積極的に会話に参加できる		○	
		3. 相手への関心が十分とは言えないが、概ね適切に参加している	○		▽
		2. 一方的に話し続けたり、話し手に反応を示さないことがよくある			
復職・復学に向けての計画性	仕事に必要な能力の理解	4. 受傷(発症)前の仕事内容とそれに求められる能力を他者に説明できる	○		
		3. 仕事内容や求められる能力を部分的には説明できる		○	▲
		2. 質問されてそれに答える形ならば仕事内容や必要な能力を説明できる			
復職・復学に向けての計画性	障害の自己認識	4. 日常の体験から問題点を感じ、必要な対策を実行している	○		
		3. 問題を感じており、対策を講じているが確実ではない		○	▲
		2. 問題を感じているが、対策が不十分である			
復職・復学に向けての計画性	復職・復学への計画進行状況	4. 職場や学校の関係者と話し合うなど具体的行動を開始している	○		
		3. 大まかな方針を立てた		○	▲
		2. どのように進めたらよいか検討している			
			37	33	4

▲: 患者の過大評価、▽: 患者の過小評価

総得点

乖離

図1: グループ訓練評価表 (記入例)